

望 月 雅 士	星 原 大 輔	檜 皮 瑞 樹	中 川 和 明	高 橋 央	大 日 方 純 夫	伊 東 久 智	執筆者紹介(五〇音順 肩書きは執筆時)
早稲田大学 教育・総合科学 学術院非常勤講 師	早稲田大学 社会科学総合学 術院非常勤講師	早稲田大学 史資料センター 助教	早稲田大学 史資料センター 非常勤嘱託	早稲田大学 史資料センター 助手	早稲田大学 文学学術院教授	早稲田大学 史資料センター 助手	

## 編集後記

まもなく、『大隈重信関係文書』第一巻が刊行されます。早稲田大学創立一二五周年記念事業の一環として、二〇〇四年一〇月に第一巻を刊行して以来一二年。この第一巻をもって、本事業はいよいよ完結を迎えます。

そして次年度——二〇一五年度からは、本誌でも継続的に進捗状況をお知らせしてきた『早稲田大学百五十年史』(全三巻)の編纂事業が本格的にスタートします。大学史資料センターでは、これまで、『大隈重信関係文書』の編纂業務、アーカイブズ及びレファレンス業務、さらには自校史教育や『百五十年史』の編纂業務といったように、各々の業務体系が密接に連携を図りながら事業を推進してきました。今回、『大隈重信関係文書』の編纂終了を受けて、そうした事業の系統も編成替えの時を迎えることとなります。

なかでも『百五十年史』の編纂事業は、本誌掲載の「編纂事業の進捗状況」でも報じていますように、単なる「年史の刊行」プロジェクトにとどまるものではありません。大学史資料センターのアーカイブズ機能の強化(学内未移管資料の所在調査と系統的な収集)、資料・文献のデータベース化(ウェブ公開)の推進、聞き取り調査を通じたオーラル・ヒストリーの蓄積、さらには自校史教育へのフィードバックなど、その目的へと向かう道のりにこそ大きな意義がある——そういったも過言ではありません。

いわば『百五十年史』を新たな動力源として、次年度以降、大学史資料センターはさらなる躍進の時を迎えることとなります。引き続き、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

(編集担当一記)